



卒業生の活躍



法学部時代の経験を基に 国家公務員として働く

総務省
亀井 龍 (2021年法学部卒業)
KAMEI Ryu

私 は総務省行政管理局企画調整課に勤務しています。総務省は、行政運営の改善、地方行政、選挙、消防防災、情報通信、郵政行政など、国民生活の基盤に関わる行政機能を担っています。その総務省において、行政管理局は、各府省共通のルールの適正な運用の確保と業務改革に取り組む、時代の要請に応じた行政の実現を目指しています。私の所属する企画調整課は行政管理局内の総括を担っており、幹部職員など課を越えて多様な職員と関わることに加え、局内外の業務や国会に関する情報を把握するため、行政官として非常に勉強になり、やりがいのある仕事です。

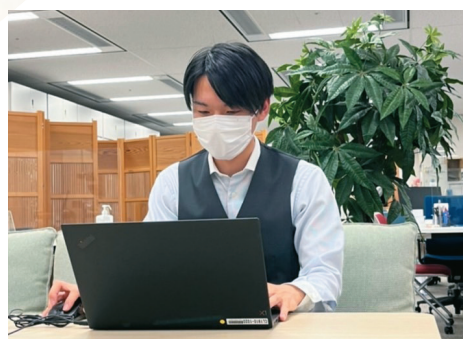
私が国家公務員の総合職を目指すことを決意したきっかけは、法学部2年次に法学部の「Law in Japan Program」と「ケンブリッジ大学夏季法学研修」に参加したことでした。さまざまな国籍の人と議論し、渡英して英国文化を肌

で感じながらケンブリッジ大学の先生方や学生と学んだことにより、私が日本人という背景を持つことを実感し、世界を相手に日本を背負って仕事をしたいと強く思うようになりました。

帰国後、私は法曹と国家公務員総合職の両方を目指しました。英国大学院に条件付合格しましたが、早期卒業制度によって法科大学院へ進学し、その後、総務省へ進路を定めました。これは、法学部が多様な学びの機会を提供し、進路

を狭めることなくキャリアを展望できたおかげだと思っています。法学部在学中に参加した日米学生会議やベルギーの大学のEU研究プログラムのほか、佐藤知恵先生や上村威先生の講義から国際社会を分析する基礎的な視点を学びました。また、「立法学」という講義では、立法府の仕組みや法律制定に係る業務を教わり、当時の知識は現在の業務にも役立っています。これと同様の講義が法学部だけではなく法科大学院でも開講されていますが、本年度は私の職場の上司が担当しており、非常に縁を感じています。

明治大学在学中にさまざまな人と関わる中で、自ら望み、考え、行動した経験は、私が今の職場で働く基礎となっています。今後、初心を忘れず、常に学び、自分が生み出すべき価値が何かを不断に探し続けながら、日本国や私たちが国民生活をより良くするために働いていきます。



執務中の様子

卒業生の活躍



明大で掴んだ夢

牛島総合法律事務所
遠田 昂太郎 (2021年法学部卒業)
ENDA Kotaro

私 は現在、企業法務を扱う法律事務所のアソシエイト弁護士（1年目）として勤務しています。私が主に扱っているのは、不動産ファイナンス、特に不動産の証券化に関わる案件です。まだ入所して間もないため、見るもの聞くもの全てが新しく、また受験勉強とは内容が大きく異なるため、右も左も分からず戸惑いを感じながら毎日ですが、日々勉強しながら成長していけたらと思っています。今後の展望としては、一つの分野の専門性を高める弁護士になるというよりは、企業法務全般を取り扱うことができるジェネラリストを目指したいと思っています。もっとも、当面は前述した不動産ファイナンスに関する案件に携わりたいと思っており、その他M&A（企業の合併・買収）の案件や金融商品取引法実務などにも興味があります。

明治大学法学部には、実務において重要な法律科目の講義がほぼ

全て網羅されており、学生は自身の興味に従って自由に受講する講座を選択することができ、加えて、予備試験対策講座、法制研究所などの課外講座も充実しているため、司法試験合格を目指す学生には申し分ない環境が整っています。私は、今年からこの予備試験対策講座の講師を務めており、後進の指導にも積極的に当たっています。OB・OGの法曹と学生との間で縦のつながりが持てるという点も、明治大学法学部でしか得ることができないメリットだと思います。さらに、私の周りには、優秀かつさまざまなバックグラウンドを持った学生がたくさんおり、その方々から常に刺激を受けていました。このように、全てが充実した環境に自分の身を置いたことで自

身の学習意欲がかき立てられ、このことが現在の私の知的好奇心の原点となり、バイタリティにつながっていると感じています。

明治大学法学部出身者には、法曹の他にも、公務員、総合商社や専門商社、金融機関その他大手民間企業に就職をしている方が大勢います。法曹志望者ではなくとも、自身の長所を伸ばし、それぞれが夢を掴むための環境が整っているため、明治大学法学部は充実したキャンパスライフを送ることができると思います。



牛島総合法律事務所のホームページに掲載されている個人写真

